

## (別紙)

様式第1号(第5条関係)

## 会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会 (第1回)
開 催 日 時	令和6年5月27日(月) 14時10分 開会 15時10分 閉会
開 催 場 所	美幌町役場庁舎2階 第2会議室
出 席 者 氏 名	鹿野委員、漆原委員、酒井委員、村田委員、岩本委員、福田委員
欠 席 者 氏 名	伊藤委員、信太委員、川添委員、岩堀委員
事務局職員職氏名	那須総務部長、竹下政策推進課長 政策統計グループ 稲場主査、鈴木主事補
議 題	1 第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について 2 第3期総合戦略の策定について
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	—
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	0名
会 議 資 料 の 名 称	資料1 美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要 資料2 第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況 資料3 第3期総合戦略の策定(概要) 当日資料 北海道新聞社 20240425朝刊(女性減少率についての記事)
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 録音データを使用した全部記録
	<input type="checkbox"/> 録音データを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
村田会長	<p><b>【開会】</b></p> <p>これより、令和6年度第1回美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会を開催いたします。</p> <p>町長の話にもありましたように、新聞などで消滅可能性自治体など衝撃的な言葉が出てきていますけども、自治体が消滅するなんていうことはないですし、消滅可能性自治体になった、ならなかったなど一喜一憂しても仕方ありませんので、美幌は美幌なりに地に足のついた討論をしていき、少しでも人口減少を食い止めるような、また住みやすい町にするような皆さんのご意見を頂戴したいと思っております。</p> <p>本日は、伊藤委員、信太委員、川添委員、岩堀委員から欠席の連絡を頂いております、6名での開催となりますので、よろしくお願いたします。</p>
竹下課長（事務局）	<p>酒井さんが新たに委員になられましたので、改めて委員の皆様より自己紹介を兼ねまして、一言ご挨拶をお願いしたいと思います。</p> <p>（村田委員、岩堀委員、鹿野委員、漆原委員、酒井委員、福田委員、事務局の順に挨拶）</p>
村田会長	<p>議事に入る前に新たに委員になった方もいることから、まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について事務局から説明をお願いします。</p>
竹下課長（事務局）	<p><b>【まち・ひと・しごと創生総合戦略概要説明（資料1）】</b></p> <p>お手元にあります資料1と書かれた資料をご用意いたします。</p> <p>美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略とは急速な少子高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、住みよい環境を確保して、将来にわたり社会を維持することを目的として制定しています。</p> <p>第1期戦略は平成27年から、そして現在の第2期は令和2年度から令和6年度までの計画となっております。</p> <p>この戦略は、美幌町の現状と将来の展望を提示する「人口ビジョン」こちらは、人口推計と人口の目標値を定めたものとなっております。</p> <p>それと、地域の実情に応じた今後5か年の施策の方向性を提示する「総合戦略」の二つで構成されております。</p> <p>総合戦略は基本目標が4つございます。</p> <p>基本目標1が地域の基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場を作ること。</p> <p>基本目標2が「びほろ」らしさを活かして、ひとを呼び込む・呼び戻すこと。</p> <p>基本目標3がこのまちで出会い結婚し、子どもを産み育てたいという希望を叶えること。</p> <p>基本目標4が住み続けたいと思える生活環境を整えること。</p> <p>人口減少対策ということになりますと、この基本目標の大枠は変わらないであろうと思っておりますが、5年間でそれぞれの目標に対してどういったことをしていくのか。をこの会議で議論を頂いております。</p> <p>各基本目標にはそれぞれ施策を掲げておまして、さらにKPIなどの数値目標を定めております。</p> <p>第2期戦略は令和6年度をもって終了することとなりますので、今年度は来期の見直しに向けた会議を行っていきたいと考えております。</p> <p>戦略の概要説明については以上となります。</p>

村田委員	<p>それでは、議事にはいります。</p> <p>議題の1番目「第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。</p>
稲場主査（事務局）	<p><b>【第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況説明（資料2）】</b> 資料番号2をご覧ください。 こちらは、総合戦略に記載されている数値目標・KPIの進捗状況をまとめた資料となっております。</p> <p><b>○基本目標1</b> 「地域の基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場をつくる」に関する数値目標とKPIの進捗でございます。</p> <p><b>【令和4年度実績誤り】</b> 令和4年度の実績に誤りがありましたので、基本目標1の赤字で記載されている部分について正しい数字に訂正させていただきました。 (新規求人数 1,393人 → 1,499人に修正) (新規求職申込件数 579件 → 642件に修正) (就職件数 207件 → 220件に修正) (充足率 14.9% → 14.7%に修正) (就職率 35.8% → 34.8%に修正)</p> <p><b>【新規求人数】</b> 新規求人数ですが令和5年度の実績は1,244人となり、数値目標である1,100人を上回る数値となりました。 令和4年度と比べると、減少しておりますが、令和4年度の数が多くなっており、令和5年度は平均的な数字となっております。令和4年度に増加した理由としては、コロナが収束して企業の経済活動が活発化したことなどが考えられます。 下の参考の欄をご覧ください。求人数1,244人に対し、新規求職申込件数が580件、就職件数が182件となっております。 新規求職申込件数について年々減少傾向であることについては、求職側と求人側の求める職種が合わず、申込に至らないことが一つの原因と考えられます。 なお、求人を出している職種としては多いのは、医療、介護、建設、製造などの資格が必要な職業で、専門人材が求められている状況です。 一方求職側については、主に事務職を希望した方が多いとのことです。</p> <p><b>【給与収入者数】</b> 数値目標の200万円を超える給与収入者数ですが、令和5年度は5,796人となり、こちらも数値目標5,600人を上回る実績となりました。 参考の欄をご覧ください。令和5年度の給与収入者数の総数は7,548人でそのうち200万円を超える給与収入者数が5,796人、200万円以下の給与収入者数は1,752人となっております。</p> <p>続いて、関連するKPIについてです。</p> <p><b>【農業販売高】</b> 農業販売高は令和5年度は133億円となり、数値目標128億円を上回る結果となりました。</p>

	<p><b>【商工業販売高】</b>  商工業販売高は、令和3年度に実施した経済センサスの実績を引継ぎ582億円となっており、次回経済センサスは令和8年度に予定されております。</p> <p><b>【起業家件数】</b>  起業家件数は令和5年度は4件となり、令和2年度からの累計値が12件となったため、令和6年度の数値目標である10件を達成した状況です。  なお、令和5年度に起業家支援事業を活用し起業したのは「ピーカン企画」、「花屋ジーナロッソ」、「居酒屋 KURAKI」、「古物と喫茶くうき」となっております。</p> <p><b>【観光入込客数】</b>  観光入込客数は766,805人となり、数値目標を上回る結果となりました。  令和4年度と比べると実績が下がりましたが、令和4年度は道の駅ぐるっとパノラマ美幌峠をリニューアルしメディア等で取り上げられ観光入込客数が増加し、令和5年度では少し落ち着いたことが要因と考えられます。</p> <p><b>【宿泊者数】</b>  宿泊客数は10,120人となりました。  美幌グランドホテルの廃業もあり、数値目標を大きく下回る状況が続いておりましたが、グランドホテル跡地に新たなホテル「ARM 美幌」が令和5年12月に開業し、R6年度はさらに数値が伸びると見込んでいます。</p> <p><b>○基本目標2</b>  続きまして、基本目標2「「びほろ」らしさを活かして、ひとを呼び込み・呼び戻す」に関する数値目標とKPIの進捗でございます。</p> <p><b>【20代から40代の転出入の差】</b>  数値目標は20代から40代の転出入の差となっており、令和5年度の実績は転出入の差がマイナス59人となっており、目標の達成には至っていない状況となっております。  転出者の動向をみると、北見市や札幌市への転出が多く、進学や就職、転勤などが要因と考えられます。</p> <p><b>【移住相談件数】</b>  関連するKPIについてですが、移住相談件数の実績は156件、累計で431件となり、数値目標を上回っております。  令和3年度から移住相談件数が増加しておりますが、要因としては、令和3年5月に移住定住特設サイト「びほろ暮らし」を開設し、本町の露出度が上がったことによるものと考えております。</p> <p><b>【移住体験施設の利用件数】</b>  移住体験施設の利用件数ですが、令和5年度は15件、累計で19件となりました。  令和2、3年は新型コロナウイルスの影響もあり、施設の利用制限をかけておりましたが、令和4年度から受付を再開し、順調な推移となっております。</p> <p><b>【事業を通じた移住件数】</b>  事業を通じた移住件数ですが、令和5年度は11件となり、累計で57件</p>
--	---

となりました。  
令和6年度までの累計目標が70件なので、順調に推移している状況です。

UIJ ターン新規就業支援事業による移住者件数、地域おこし協力隊による体験ツアー参加をきっかけとした移住者件数は0名となっておりますが、移住定住に向けては時間を要するものですので、継続的にアプローチをしていきたいと思っております。

また、昨年4月1日に移住相談拠点施設「KITEN」がオープンしましたので、「KITEN」を中心とした移住定住促進事業に取り組めます。

#### 【企業・政府関係機関の誘致件数】

企業・政府関係機関の誘致件数は、令和5年度は0件でしたが、目標値を既に上回っている状況です。

先ほどお話をさせていただきました「KITEN」は、サテライトオフィスとしての機能もありますので、KITENの利用を通じた企業との関係性構築に取り組めます。

### ○基本目標3

続きまして、基本目標3「このまちで出会い結婚し、子どもを生ま育てたいという希望をかなえる」に関する数値目標、KPIの進捗でございます。

#### 【合計特殊出生率】

令和5年度の実績は1.26となっており、前年度と比べ増加しましたが、目標を下回っている状況です。

#### 【婚姻届出数、出生数】

KPIの進捗ですが、婚姻届出数、出生数ともに前年度に比べ増加しました。

合計特殊出生率の数値目標達成に向けて、出産支援、子育て支援、教育環境の充実に取り組み、本町で子どもを生ま育てたいという環境を整備しておりますが、基本目標2でもご説明させていただいたとおり、20代から40代の子育て世代の人口が減少していることもあるため、移住定住の促進、未婚者の結婚促進や出産・子育て支援など、様々な分野の施策を継続的かつ効果的に実施することで改善に繋がると考えております。

#### 【(小・中学生) 学力調査の全国平均との差】

小学生・中学生の学力調査の全国平均との差ですが、数値目標を下回る結果となりました。

生徒が変わるため数値のみで比較することは難しいが、それぞれの課題を明確にし、分析をしたうえで授業に取り組んでいます。

小学生については、全国平均との差を縮めている状況です。

#### 【美幌高校入学者数】

美幌高校入学者数の実績は令和5年度は46名となり、過去4年間で一番少ない人数となりましたが、令和6年度の入学者数は73名となっております。令和5年度に比べると回復したものの、目標値は下回っている状況です。

入学者数の増加に向け、高校の魅力化等の施策について町も支援させていただいておりますので、引き続き取り組みを推進していければと考えております。

<p>村田会長</p> <p>那須部長（事務局）</p>	<p>○基本目標4 最後に基本目標4「住み続けたいと思える生活環境を整える」に関する数値目標、KPIの進捗でございます。</p> <p>【「美幌町に住み続けたい」と思う人の割合】 数値目標は「美幌町に住み続けたい」と思う人の割合、人口としており、「美幌町に住み続けたい」と思う人の割合は77.1%、目標値の85%に到達できていない状況です。 このアンケートは、第6期総合計画後期基本計画の策定のため令和3年に実施したもので、今回は第7期総合計画策定時に実施予定です。</p> <p>【人口】 人口については、目標値18,368人に対して令和5年度で17,526人となっており、目標値を下回っている状況です。</p> <p>【美幌高校の町内企業就職者数】 関連するKPIですが美幌高校の町内企業就職者数は目標値20人に対して令和5年度は10名となっており、目標値を下回っている状況です。 令和5年度は令和4年度と比べ、進学する人数が多かったことも一つの要因であると考えられます。</p> <p>※参考 令和5年度 進学29名、就職21名、未定1名 令和4年度 進学33名、就職28名 令和3年度 進学20名、就職34名 令和2年度 進学55名、就職28名</p> <p>【事業実施による雇用者数】 事業実施による雇用者数は令和5年度は25人となり、過去4年間で一番多い人数となりました。目標達成に向け、引き続き取り組んで参ります。</p> <p>【若者世代（10代～30代）の「住みよい」「どちらかといえば住みよい」の思う人の割合】 若者世代（10代から30代）の「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と思う人の割合ですが、78.6%でした。目標値に到達してはおりませんが、次期アンケート時に「住みよい」と思っただけの割合が増えるよう、各種事業を実施して参ります。</p> <p>【自主防災組織の結成率】 自主防災組織の結成率については、自主防災組織がある地域に住んでいる世帯数の減少が進んでおり、年々減少しております。 町内自治会で自主防災組織が未設立の自治会もありますので、設立に向けた通知・案内など、防災意識の向上に向け取り組んで参ります。</p> <p>&lt;質疑応答&gt; ただいま事務局から説明がありましたが、何かご意見やご質問等ございますか。 私の方から、何点か。 役場や農協など、新人さんが入って来てはすぐやめるという傾向が強まってきているようですが、実際のところどうなのか。</p> <p>おっしゃる通り、結構辞めてしまう方が多いのが現状で、転職</p>
------------------------------	--

村田委員	<p>がしやすいような社会環境になってきているようです。</p> <p>実際、他の町から就職してくれて人口が増えていたのにすぐいなくなってしまっは意味がないというか、非常に残念。原因などを突き止めるっていうのも難しいと思うが、ちゃんと追及していただいてなるべく離職者が出ないようにしていただきたいなど、外から見ている最近そう思うので。</p> <p>テレビなどでもどこでも転職できるような CM などが流れているし、実際はどうなのかなと。</p>
竹下課長（事務局）	<p>基本目標 1 の進捗状況を見ても、充足率が年々減っていて圧倒的に求職申込件数よりも求人数が多いことなどから、退職した後早い段階で次の職に就いているというのも現状です。</p>
村田委員	<p>せっかく役場とかに就職できたのに、やめて他の仕事についてしまうのはなんでなんだっていうのが気になる。他の仕事についてそっちの方が良いならいいんだけども。</p>
那須部長（事務局）	<p>今年から社会人枠の採用も始めまして、美幌から出て働いていたけど実家が美幌にあるなどの方が帰って来てくれたらと思い始めたんですけど、実際に今年何人か採用に至ってしまして、中には町外出身の方などもいます。</p>
村田委員	<p>農協さんの現状はいかがですか。</p>
鹿野委員	<p>状況はそう変わらないかなと思います。最近は理由が多様化していて、対策をとるのも大変なのですが、幅広く対策をしないといけないなど思っていて、最近インターンシップなどを行い、農協の仕事を知ってもらってからある程度理解を持った中での採用を行っているの、ここ 2 年くらいはすぐやめるということはなくなってきた。</p>
村田委員	<p>校長先生が来ていないのですが、去年学校の寮が足りないという話が出ていたが現状など聞いていたりするか。</p>
竹下課長（事務局）	<p>寮についてですが、結論から言うと足りておりません。男女別に分けられないといけないなどいろいろ条件がありまして、民間の施設や下宿なども活用していく予定だと聞いております。</p> <p>改修も行ったのですが、まだまだ足りないという現状であります。</p>
村田会長	<p>野球部が美校にできたということを知ってちょっと気になったので。</p>
那須部長	<p>令和 6 年度の入学者も増えていますので、取組の成果が見えてきたのではないかと教育委員会から聞いております。</p>
福田委員	<p>今日、校長先生に色々お話を聞きたいと思っていたのですが、前年の会議録などを読んでいると前任の校長がこの会議でも困っていることなどを分かりやすく伝えていたので、懸念としては校長が変わったことで、高校の魅力化などいろいろ頑張っていた部分を見ていたので、動きが鈍ってしまわないか不安がある。</p> <p>町として美幌高校への支援などを拡充するなどそういうことはあるのか。</p>

那須部長（事務局）	<p>町としても、色々な支援をしていて教材費の支援や寮費の支援など、金銭面での支援はかなりしています。</p> <p>あとは、クロカンを頑張っている子が道南に出て行かず美幌で頑張ってくれているなど聞きますので、部活への支援や経済的な支援などを今後も行っていきたい。</p>
岩本委員	<p>基本目標2にある移住関係で、美幌に移住していただくような施策を展開していると思うが、近隣の自治体も移住促進施策を打っている。その中で特に美幌町が差別化できているような施策、または広域的に他自治体と連携した取り組みなど行っているか。</p>
稲場主査（事務局）	<p>移住施策でいうと、KPI にあります就職・就業に関する補助がメインとなってくるかと思います。こちらに関しては他自治体も実施しているため差別化を図るというのは中々難しいかもしれません。</p> <p>美幌町ならではの取り組みですと、昨年4月1日にオープンしたKITENの存在が大きいかと思います。KITEN を中心に移住定住促進事業や関係人口創出事業に取り組んでおります。関係人口創出事業では、インターンとして道外の大学生に来てもらい、昨年度は5名の実績があります。すぐに移住に繋げるというのは難しいのですが、美幌町と関係のある人材を広げていき将来的に美幌に移住してもらえるような人口を増やす取り組みを継続し最終的に移住定住に繋げていくという、長期的ではありますが移住定住事業・関係人口創出事業に取り組んでいきます。</p>
竹下課長（事務局）	<p>広域的な観点でいいますと、今稲場からも説明がありましたKITENですが、ご利用いただく方の多くが女満別空港のラウンジ代わりとして利用しており、オホーツクの玄関口といえますか、キープレイスとなれるような活動をしております。</p> <p>北見市、津別町、置戸町、訓子府町と美幌町の1市4町で定住自立圏という北見市が中心地となりながら、そこでもエリア全体での移住定住に向けた活動なども行っております。</p>
村田委員	<p>北見と美幌で地域おこし協力隊で公共交通の運転手を募集していたが、もう動き出しているのか。</p>
竹下課長（事務局）	<p>今年度から動き出している。</p>
村田委員	<p>北見と美幌、どちらでもいいということか？</p>
竹下課長（事務局）	<p>定住自立圏の関係でどちらでもいいということになっている。</p>
村田委員	<p>その他の方でなにかありますか。</p> <p>それでは、議題の2番目、「第3期総合戦略の策定について」、事務局から説明をお願いします。</p>
竹下課長（事務局）	<p>議題の2に入る前に、北海道新聞の切り抜きを見て頂きたいのですが、女性減少率というのが大きく掲載されて、オホーツクでは美幌町が最下位のスコアとなっております。</p> <p>この女性減少率の出し方について解析している最中なのですが、こちらの女性減少率の計算方法で使う要因が4つありまして、「将来の生存率」すなわちその方が将来何%生き残るか。続いて「将来の移動率」いわゆる人口動態。続いて「将来の子ども女性比」こちらは20～44歳に対する0～4</p>

<p>稲場主査（事務局）</p>	<p>歳人口の比率。最後に「将来の0～4歳性比」何人ずつ生まれていくか。</p> <p>この4つの要因を組み合わせて計算をしているのですが、国が示している計算方法で計算を行っても公表されている数字にはなりません。国全体の推計値に合わせて市町村毎の結果が調整されており、どのように補正したかなどは公表されていない状況となっております。</p> <p>本来であれば、この1回目の会議で内容を解明して、オホーツク内で美幌町が最下位の原因などをご説明したいと思っていたのですが、まだ解明しきれていない部分がありましたので、次回以降の会議に向けて解明を進め皆様にご説明させていただければと思います。</p> <p>いずれにしても、減少カーブが大げさかは別として、減少していくことは変わらない話でありますので、しっかり向き合っていかなければならない問題だと受け止めております。</p> <p>この後、第3期戦略のご説明をしていきますが、女性減少率が美幌町は高いということを念頭において、聞いていただければと思います。</p> <p><b>【第3期総合戦略の策定について説明（資料3）】</b></p> <p>資料3をご覧ください。</p> <p>まずは、全体の概要についてであります。現行の第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略が今年度で修了する計画となっていることから、第3期総合戦略の策定に向け準備を進めるものでございます。</p> <p>なお、国の方で令和5年度に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しており、その中で「デジタルの力を活用し地方の社会問題解決や魅力向上の取組・深化を図ること」とされており、地方においてもそれを勘案し策定することと言われております。</p> <p><b>【策定のポイント】</b></p> <p>1点目は、人口ビジョンの見直しです。</p> <p>第2期戦略では、人口ビジョンの見直しを行わず、第1期戦略の数字を継続しておりましたが、第3期戦略では、国勢調査の結果や各種施策の取り組みを見込んだ人口推計を行い、人口目標の再設定を行うことで、人口ビジョンの見直しを行います。</p> <p>2点目は、UIJターンの強力推進です。</p> <p>ICT社会の推進によりテレワークが普及し、場所を選ばない働き方が現実的に可能となっていること、また「呼び戻し」に力をいれることで、生産年齢人口の拡大や出生率の増加を期待するもので、UIJターンの具体的な施策を展開していきたいと考えております。</p> <p>3点目は、青年団体等との意見交換です。</p> <p>戦略では、こちらの会議で策定や推進について審議や意見をいただくこととしておりますが、加えて第3期戦略では青年団体等との意見交換の実施や幼稚園父母会を通じたアンケート調査の実施など、若年層や子育て世帯が望む要素などについて意見交換を行い、戦略へ反映することとします。</p> <p>4点目は、デジタルの力を活用した社会課題解決・魅力向上です。</p> <p>国が示している「地方版総合戦略策定・効果検証のための手引」というものがあり、その中でデジタル活用について戦略にその要素を入れ込むよう記述がございます。</p> <p>美幌町の現戦略に置き換えますと、4つの基本目標毎にデジタル技術による取り組みを並べる必要があると考えているところです。</p>
------------------	---

	<p>5点目は、女性の定着を図る施策立案です。</p> <p>先ほど、竹下からご説明をさせていただいたとおり、人口戦略会議が各自治体の2050年の20～39歳の女性減少率を発表しましたが、美幌町は管内で一番女性減少率が高いことが分かりました。こちらの分析を進め、女性減少率を抑える具体的な施策を展開し、女性の定着を図る実践的な戦略とすることが必須であると考えております。</p> <p><b>【策定スケジュール】</b>      続いて策定スケジュールについてです。      本部会議、推進会議、意見交換などを実施しながら、本年12月に案を完成させることを目標としています。      策定スケジュール内の町民会議がこの推進委員会に該当しておりまして、今回を含め計5回を予定しています。</p> <p><b>【名称変更について】</b>      続いて名称変更についてです。      国からは地方版戦略の名称について名称変更することが適切だと記されておりまして。これは、国が定める総合戦略の名称が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に変更されたことに伴うものであります。      この名称変更については、内閣府の交付金などで「デジタル田園」と使われるのですが、名称を変更しなくても交付金の申請には問題がないとも言われておりますが、今後の会議において、事務局より名称案を示させていただきたいと考えております。</p> <p>竹下主幹（事務局）      ただいま稲場から策定スケジュールについてご説明がありましたが、例年ですと進捗状況の意見交換やご確認、評価などをいただく会議でしたが、今年度につきましては、第3期総合戦略の策定に向けて計5回の会議を開催させていただきます。皆様には例年よりも多くご出席をさせていただきますが、御協力をお願いしたいと考えております。      資料1に記載の4つの基本目標は、人口減少対策において不変であろうと考えております。これらを行うための今後5年間の基本的方向性を決めるために皆様のご意見をたくさんいただきたいと思っております。皆様にご意見いただいた方向性に沿って施策展開については事務局の方で整理をさせていただきます、そのような形で進めて行きたいと考えております。</p> <p>村田委員      基本的方向性について意見をということでしたが、策定のポイントに青年団体等との意見交換はありますが、女性との意見交換はないので自治会女性部など女性団体に意見を聞くということも必要だと思います。</p> <p>竹下課長（事務局）      具体的な進め方としては、今回はオリエンテーションでしたが、次回会議に向けて6月中にこちらから文書をお送りいたしますので、基本的方向性にどういったものを反映させたいかをキーワード、要素、具体的な施策、どういった形でも構いませんので、それぞれの目標に付く方向性としてどういったものが良いかを、あらかじめご意見を頂戴したいと思っております。      それを取りまとめたうえで事務局案としてお示しし、肉付けなどをしながら基本的方向性を皆さんと一緒に考えていければと思っております。      順番が前後してしまいますが、人口ビジョンについては、事務局の方で別途シミュレーションをしておりますので、ある程度形ができましたら、皆様にお示しいたします。</p>
--	---

村田委員	<p>新しく委員になられた方へ前回までの議事録も一緒に送付してあげてください。前任者がどんなことを言ったかなどを見てもらいましょう。 何かご意見やご質問はございますか。</p> <p>(ご意見・ご質問なし)</p> <p>では、事務局より事務連絡があります。</p>
稲場主査 (事務局)	<p>次回の会議開催は7月中旬頃を予定しております。 先ほどご説明をさせて頂いた通り、皆様にいろいろなご意見を頂戴したいと考えております。後日改めて依頼文を郵送いたしますので、お忙しいとは思いますがご対応いただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
村田委員	<p>以上で本日予定されている会議の内容については全て終了しました。皆様お疲れ様でした。</p>
山本委員	<p><b>【閉会】</b></p>